

第 21 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会(国産野菜の契約取引マッチング・フェア in 福岡)の概要について

10 月 31 日(木)、冬春野菜を中心に主力産地である九州地方で初めて、標記交流会を開催しました。その概要は、以下のとおりです。

1 出展者・来場者

今回は、地元九州を中心に、過去最多となる 117 の事業者・団体が出展しました。

また、初出展者も 64 (うち、生産者・生産者団体 37、流通・加工業者 22) と新しい顔ぶれが揃い、これまでの地方開催のなかでも過去最高となる 580 名の来場者が訪れる中で、積極的な商談が行われました。



- ・ 出展者数 117 (うち、生産者団体 10、生産者 50、流通・加工業者 33)
- ・ 来場者数 580(うち、小売 50、商社・卸・流通 237、食品加工・製造 66、外食・中食・給食業者 59、マスコミ 5)



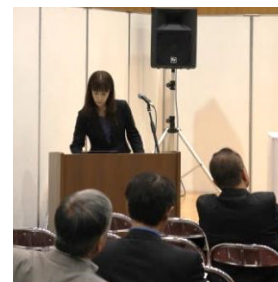
2 特別商談会コーナー

マッチングの成果をさらに後押しするため、実施している「特別商談コーナー」(野菜ビジネス協議会及び青果物カット事業協議会の会員企業等と出展者を結び付ける、個別・予約制の商談会)には、実需者 11 社に対し 50 の生産者等が参加し、延べ 134 件の商談が精力的に行われました。



3 契約野菜関連事業説明会

会場内に設けたセミナー会場で、農林水産省の担当官と連携しながら、リレー出荷の特例措置を含む契約野菜関連事業を周知するため、説明会を行いました。



4 野菜産地と実需者とのセミナー・パネルディスカッション

(野菜ビジネス協議会主催)

セミナー会場で、産地側及び実需者側からの話題提供の後、(一社) J C総研客員研究員の仲野隆三コーディネーターと、産地側2名(農業生産法人(有)四位農園代表取締役社長 四位廣文氏・(農)ながさき南部生産組合会長理事 近藤一海氏)、実需者側2名(東京デリカフーズ(株)取締役九州事業所所長 澤田清春氏・MCプロデュース(株)代表取締役社長 深見隆氏)によりパネルディスカッションが行われ、異常気象時の対応策、契約取引栽培に関する問題点、産地側・実需者側双方への要望等が活発に意見交換されました。



5 試食コーナー

出展者が持ち寄った「自慢の野菜」をサラダバー形式で来場者が自由に試食できる「試食コーナー」では、38の出展者が70種以上の野菜等を持ち寄り、多彩な種類のサラダを求める来場者で盛況でした。



6 アンケート結果

回答数：417 件（うち、「役に立った」との回答が 95%、また、役に立った理由は、「情報交換ができた」との回答が 35%、「参考となる情報が得られた」との回答が 29%）

○来場者からの交流会に対する主な意見

良かった点	今後の改善、要望等
<ul style="list-style-type: none">・出展者の対応が丁寧で新しい取組を提案してくれた。・通年供給もでき、取引をしたいと思った。・情報交換ができ、新しい取組ができそうだ。・珍しい商材を発見できた。・新品種の情報を得ることができた。・出展者が野菜の流通について詳しく教えてくれた。・産地側及び実需者側双方によるパネルディスカッションが興味深かった。・商品や会社のアピールに熱意が感じられ良かった。	<ul style="list-style-type: none">・毎年福岡で開催してほしい。・もっと回数を多く開催してほしい。・出展者を増やしてほしい。・中四国や中京地区等、各地でやってほしい。・2日間開催してほしい。・各品目の出荷直前に開催してほしい。

※第 21 回交流会の開催概要（詳細）については、当機構が発刊している野菜情報 12 月号に掲載しています（機構 HP 上の 野菜>情報誌>月報 野菜情報 2013 年 12 月号 >第 21 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会の概要）。

URL: <http://www.alic.go.jp/>

野菜情報

で検索